

幕末から明治は、社会が大きく変わった激動の時代。文明開化の名のもとに、近代化が進む日本の国づくりを佐賀県の人たちや産業が支えました。

□明治政府で活躍した佐賀県の人たち

- 鍋島直正** 1814 (文化11)年～1871 (明治4)年
1869 (明治2)年、北海道の開拓使初代長官に就任。現地には赴任していない。
- 島義勇** 1822 (文政5)年～1874 (明治7)年
1869 (明治2)年、開拓使開拓判官として北海道へ赴任。
- 佐野常民** 1822 (文政5)年～1902 (明治35)年
1880 (明治13)年に大蔵卿 (今の財務大臣)、1882 (明治15)年に元老院議長、1892 (明治25)年に農商務大臣など要職を歴任。
- 副島種臣** 1828 (文政11)年～1905 (明治38)年
1869 (明治2)年、参議に就任。その後、外務卿 (今の外務大臣)として活躍。
- 大木喬任** 1832 (天保3)年～1899 (明治32)年
1871 (明治4)年に文部卿 (今の文部科学大臣)、1873 (明治6)年に司法卿 (今の法務大臣)就任。
- 江藤新平** 1834 (天保5)年～1874 (明治7)年
1872 (明治5)年に司法卿就任。
- 大隈重信** 1838 (天保9)年～1922 (大正11)年
1870 (明治3)年、参議に就任。その後、大蔵卿、外務卿など要職を歴任し、総理大臣にも2度就任。



(古川英文氏 提供)

北海道神宮の 島義勇像

北海道開拓の父として、北海道神宮と札幌市役所に銅像が、札幌市の円山公園には顕彰碑が建てられています。



(国立教育政策研究所教育図書館 蔵)

明治時代の学校の様子 「小学入門教授図解 第七」

大木喬任は、身分に関係なく国民全てが教育を受けられる仕組みを作りました。



副島種臣宛大旗 (縦333cm×横187cm)

副島種臣がマリア・ルス号事件の後、清国から贈られた感謝の旗です。

(神奈川県立図書館 蔵)

調べてみよう!

副島種臣が外務卿として活躍したマリア・ルス号事件とは、どんな出来事だろう。



他県の初代の長官(県令・権令)に就任した佐賀県の人たちもいました!

1871 (明治4)年の廃藩置県後、地方行政が始まり、中央政府から任命された県令・権令 (現在の県知事) が各地に派遣されました。

- 秋田県** **島義勇**
任期/1871 (明治4)年～1872 (明治5)年6月24日
- 栃木県** **鍋島幹**
任期/1871 (明治4)年～1880 (明治13)年10月29日
- 三重県** **岩村定高**
任期/1876 (明治9)年4月18日～1884 (明治17)年7月10日
- 沖縄県** **鍋島直彬**
任期/1879 (明治12)年4月4日～1881 (明治14)年5月13日

首都を京都から東京に移すことを提案した大木喬任は、1868 (明治元)年、2代目の東京府知事 (現在の東京都知事) に就任。

調べてみよう!

佐賀県の初代県令に就任したのは誰だろう。



□佐賀の乱(佐賀戦争)から佐賀県の再置へ



(佐賀県立博物館 蔵)

佐賀県逆動聞

佐賀の乱(佐賀戦争)の様子を描いた錦絵

1874 (明治7)年、元武士である士族たちの明治政府への不満が爆発して、「佐賀の乱(佐賀戦争)」が起こりました。その首謀者とされたのが江藤新平と島義勇です。戦いは2週間ほどで終わりましたが、その後、全国各地で士族の反乱が発生しました。

注)「佐賀の乱」については「佐賀戦争」と表記されることもあります。

第1章 佐賀県の概要

第2章 佐賀県の歴史

第3章 佐賀県の人物

第4章 佐賀県の文化

第5章 佐賀県の自然

第6章 佐賀県の産業

第7章 佐賀県の食文化



佐賀城の鯨の門には、佐賀の乱の激しい戦いによる、銃弾の跡が残っています。

調べてみよう!

この後、各地では、どのような士族の反乱が起こったのだろう。

1871(明治4)年 廃藩置県

1871(明治4)年 伊万里県(現在の佐賀県の範囲と現在の長崎県対馬を合わせたもの)設置

1872(明治5)年 佐賀県(現在とほぼ同範囲の佐賀県)設置

1874(明治7)年 佐賀の乱(佐賀戦争)

1876(明治9)年4月18日 三潯県(現在の福岡県久留米市など)に編入 佐賀県が廃止

1876(明治9)年8月21日 旧肥前国の領域が長崎県に編入

1883(明治16)年 佐賀県が復活

1887(明治20)年に建設された旧県庁舎

佐賀県は一度なくなった!

(佐賀県教育委員会「佐賀県の人物と遺跡」より)

明治の近代建築をリードした辰野金吾と曾禰達蔵



耐恒寮の跡地に建立された記念碑

耐恒寮は、唐津藩が設立した英語学校で、当初は、現在の唐津市大名小路にありました。その後、旧唐津城二の丸に移転されます。耐恒寮には、のちに総理大臣となった高橋是清が英語教師として赴任しました。



工部省工学寮(現在の東京大学)第一期卒業生

唐津藩出身の辰野金吾と曾禰達蔵は、耐恒寮で学んだ後、工部省工学寮の第一期生として入学し、イギリス人建築家ジョサイア・コンドルから建築を学びました。

辰野金吾が設計した武雄温泉楼門と東京駅につながりを発見!

2013(平成25)年、武雄温泉楼門の2階天井で発見された「子、卯、午、酉」の彫り絵。



(武雄温泉株式会社 提供)



武雄温泉楼門

(武雄温泉株式会社 提供)

西洋建築の辰野設計では珍しい、まるで竜宮城のような、真っ赤な朱塗りの武雄温泉楼門。



(川副義敦氏 提供)



(川副義敦氏 提供)

東京駅の八角形のドーム天井に飾られた8つの千支

武雄温泉楼門の4つの動物と、東京駅にある8つの動物を合わせると十二支になることが分かりました。



辰野金吾が設計した東京駅

(PIXTA 提供)

調べてみよう!

二人が設計した建築物を調べて、見くらべてみよう

見どころスポット

辰野金吾が設計監修した旧唐津銀行(辰野金吾の資料展示)

住所: 唐津市本町 1513-15
電話: 0955-70-1717
開館時間: 9時~18時
休館: 12月29日~12月31日
料金: 無料



第1章 佐賀県の概要

第2章 佐賀県の歴史

第3章 佐賀県の人物

第4章 佐賀県の文化

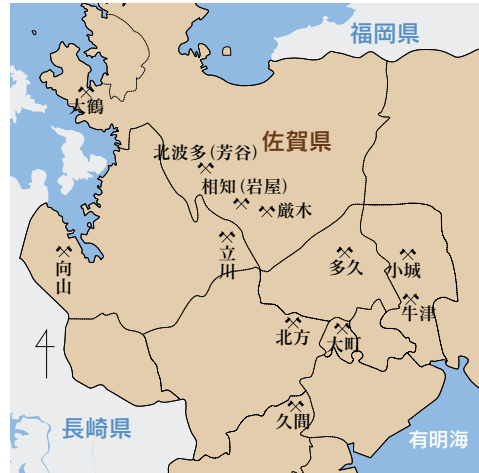
第5章 佐賀県の自然

第6章 佐賀県の産業

第7章 佐賀県の食文化

□日本の近代化を支えた石炭産業

石炭を産出していた地域



〔石炭産業の史的展開〕を参考に作成

石炭は、幕末から昭和時代中期まで、日本経済を支える大切なエネルギー源でした。特に唐津地方は石炭の宝庫で、幕末から明治時代の初期にかけては出炭量が日本一でした。

世界遺産・三重津海軍所跡 (佐賀市諸富町・川副町) から出土した石炭



(佐賀市三重津世界遺産課 蔵)

蒸気船の燃料として使用された石炭。ほとんどが10～15cmほどに砕かれ、大きな塊から蒸気船のボイラーに入るサイズに加工されていました。

1930(昭和5)年に行われた杵島炭礦会社 (杵島郡大町町)の運動会

1929 (昭和4)年に杵島炭礦が設立。各地から労働者が集まり、1941 (昭和16)年の大町町の人口は2万4000人の最盛期を迎えました。



(大町町公民館 提供)

住ノ江港での石炭積み込み作業

杵島炭鉱の発展にあわせて、石炭の積出港として栄えた住ノ江港 (現在の小城市及び白石町)。



〔佐賀県史 下巻〕より

調べてみよう!

当時県内で産出された石炭は、どのように活用されていたのだろう。



ポタ山 (大町町)



(大町町公民館 提供)

杵島炭礦会社の第三坑ポタ山

炭鉱で採掘した石炭を選別し、商品にならない石炭や岩石を積み上げた山。ポタ山が並ぶ様子は、炭鉱のかつての象徴でした。

世界遺産・高島炭坑 (長崎県)の開発には佐賀藩が関わっていた!

長崎半島の西沖合に位置する高島 (現在の長崎市) を治めていた佐賀藩は、1868 (慶応4)年、トーマス・グラバーと共同経営を開始。蒸気機関を利用した近代的な炭坑の始まりでした。

— 第3章 — 佐賀県の 人物

